

## 平成 28 年度農用地等の借受希望者を募集中！～8月1日(月)〆切～

農地中間管理事業を活用した農用地の借受け希望者を募集しています。募集要領は、下表のとおりです。なお、昨年度お申し込みいただいた方も再度お申し込みが必要ですのでご注意ください。

募 集 期 間	平成28年7月1日(金)から8月1日(月)まで
募 集 区 域	京都府内の農業振興地域を有する26市町村56区域 ※詳細は当機構又は市町村農政担当課にお問い合わせください。
応 募 方 法	農用地等の借受希望申込書に必要事項をご記入の上、提出してください。 ※申込書は、市町村農政担当課でお受け取りいただけるほか、 <a href="#">当機構のホームページからもダウンロード</a> いただけます
提出方法及び提出先	持参、郵送の場合は、希望区域の市町村窓口に、メール、郵送の場合は、 <a href="#">農地中間管理機構</a> （京都府農業総合支援センター）に提出してください。

## 平成 27 年度農地中間管理機構の実績～農林水産省が発表～

農林水産省は、5月に平成27年度の全国の農地中間管理機構の活動実績を発表しました。機構からの農地の転貸面積は、事業1年目の平成26年度の約3倍程度に拡大。担い手の利用面積は、機構以外の転貸等を含めると8万ha増加、うち農地中間管理事業による増加は2.7万haでした。農地の52.3%（2%増加）が担い手に集積されました。

当機構の実績は、平成26年度の約7倍と大きく伸びましたが、機構以外の転貸等を含めた担い手の利用面積割合は、17.8%、1.1%増にとどまっています。府内の農業・農村を守るためには、担い手への農地集積を強力に進めることが求められます。また、京力農場プランに機構の活用方針が明らかになっている地域は、京都府では52%で、全国平均の74%を下回っています。

地域や農家の皆さんに農地中間管理事業を知ってもらうための広報活動を強め、地域の話し合いのもとに事業を活用いただけるよう取り組んでいきます。

## 農地中間管理事業の取組みを議論 ～農地利用推進チーム（全体）会議～

京都府及び当機構が共に掲げる平成28年度農地集積目標面積1000ha。具体的にどのようにして達成するのか。地域の農業・農村を守る施策を検討・提案する会議が6月28日に開催されました。会議では、各振興局から管内の市町村や関係団体で構成する地域農地利用推進チーム会議で重点実施地区やプラン作成・見直し見込み地区等について議論した結果を踏まえ、今後の取組の考え方が報告されたのち、熱のこもった議論が展開されました。

まとめとして、昨年度の担い手への農地集積の移行状況の分析とターゲットを絞った働きかけ、産地づくりを含めたプランの作成・見直し、借受希望者の具体的ニーズ聞き取りに基づくカルテの作成と集落への働きかけ、基盤整備関連機関・部署間の連携強化など新たな取組により、目標面積を達成するため関係団体が積極的に取り組むことが確認されました。

機構としても、事務必携の作成・配布による関係職員のスキルアップ、農地整備事業関係組織との連携体制の整備など更に精力的に取り組んでいきます。



## ☆参入企業の真剣な取組み紹介②☆

### ～阿部農地利用推進員レポート～

右京区京北町の農地、5haで独自の技術で土壌改良を行い、農薬や化学肥料を使用せず美しい野菜作りを実践する「[\(株\)日本情報化農業研究所](#)」。古庄 貴司代表取締役は、「各々が持ち場での役割を發揮してこそ効率も高まり、収益率も高水準を維持できます」と強い信念で農業に向きあう。その根底には技術への確信と継続力が漲っている。規模拡大も必然と位置づけ、中間管理事業活用も含め描く未来像は壮大である。農業のIT化にも注力し、現場業務情報を写真中心に共有するコミュニケーションアプリ「HOURENN。SO」の提供で農業経営体の大きな力となっている。



生育管理にはドローンも活用



除草にはヤギ君も活躍

## ☆地域集積協力金を活用した事例紹介①☆

### ～伊根町菅野地区～

農地中間管理事業により地域の農地面積の2割以上を集積した場合は、地域集積協力金が地域に交付されます。この交付金を地域の農業振興のために有効活用された事例をご紹介します。

今回は、丹後半島の東寄りの山間地、伊根町菅野地区です。住民は29世帯、うち12～3軒が農業を営む小さな集落です。水田は「棚田」といっても過言ではないような傾斜地にあり、イノシシによる獣害が著しいとのこと。集落で話し合いをリードし、プランをまとめ上げ、農地の集積で集落を守り続ける中心人物は、チャレンジ精神旺盛でエネルギッシュな池田さん。「今まではイノシシに掘り返された水路を手作業で直していたが、大変な重労働。地域集積協力金でバックホウを購入したのでこれからは作業負担も減り、短時間で効率的に作業が進む。」と笑顔でお話してくださいました。

池田さんは、伊根町ジビエ会有限責任事業組合長さんでもあり、加工施設を整備され、販売も順調でお忙しそう。また、「菅野村さ.いこう会」の立ち上げに向け奮闘中とのこと。「現状維持」ではなく、新たな取組みで更に「発展」していこうとされている姿勢には、頭が下がる思いです。ご協力ありがとうございました。



協力金で購入したバックホウと池田さん



イノシシに掘り返された水路

## ✿イベントガイド✿

開催日	催事名	会場	お問い合わせ
8月10日(金)	農地農政相談	福知山市内複数会場	福知山市農業委員会事務局
8月18日(木)	山城地域就農相談日	府田辺総合庁舎	山城北農業改良普及センター 山城南農業改良普及センター
<p>◆ある程度の就農準備ができていますの方を相談対象として想定しております。</p> <p>◆就農準備がどの程度できているかにより、他の相談機関を紹介する場合がありますので、御了承ください。</p>			

[京都府農地中間管理機構](#)では、平成28年4月から「FarmBankNews」を発行し、農地中間管理事業を中心とした様々な情報をお届けします。